

# 「補聴器は早期から」が重要、購入費助成制度創設を!

9月議会の一般質問で私は、高齢化社会を迎え、大きな問題となっている加齢性難聴対策、「核のごみ」の地層処分、大島・三和中学校グラウンドなどのナイター設備廃止問題を取りあげました。このうち加齢性難聴対策で市長は、世界保健機構（WHO）が推奨している「早い段階からの補聴器使用」の重要性を認めました。



以下は、加齢性難聴対策についての私と市長や担当部長とのやりとりの大要です。

【橋爪】65歳以上の2人に1人が難聴と言われている。難聴者も

普通に暮らせることが重要だ。高齢社会における「聞こえのバリアフリー」（難聴者が普通に暮らせるようにあらゆる障害をなくすこと）の重要性についてどう思うか。

【市長】加齢性難聴を含め、あらゆる障壁に対し、高齢者が安心して社会生活を送ることができるよう、障害のある人もない人も共に支え合いながら、住み慣れた地域で安心して健やかに暮らしていくための取組を進めていくことが必要だ。

【橋爪】世界保健機構（WHO）では、難聴が中等程度の

早い段階から補聴器を使用することをすすめている。早い段階からの補聴器使用の重要性についてどう考えるか。

【市長】日本耳鼻咽喉科学会によると、根本的な治療法はないとしながらも、できるだけ早期から補聴器などを使用し、聴力低下の影響を回避、軽減するとともに、普段の生活において「耳に優しい生活習慣」を意識し、取り入れることで聴力低下の進行を遅らせることが十分に可能との報告が示されている。

【橋爪】健康講座など生活習慣病対策を進めることは難聴対策の重要な一つだが、早い段階から補聴器を使用することは、単に早ければいいという話ではない。（補聴器を使用しないで）そのまま行くと、認識できない音が増えていくという重要な意味がある。補聴器は高額だ。全国の自治体では補聴器購入助成制度をつくったところが20ほどある。こういうところに学んで当市でも実現してほしい。

【健康福祉部長】今後はそういうことを研究していきたいと思うが、（当面）当市では、健康というところに配慮しつつ、取組を進めていきたい。

## 上越の魅力、たっぷり

市民創作音楽劇「くびき野の歌」を観てきました。ふだん見聞きするふるさとの暮らしや風景を思い浮かべながら、こ

の地に生きる喜びをかみしめました。春先の「青い雪」、また見てみたくなりました。老いも若きもみんな観てほしい音楽劇でしたね。杉みき子さんの脚本も読みたくなりました。



【ヤクシソウ】キク科の二年草。漢字で「薬師草」と書きます。草丈は大きいものと1mほどになります。花期は9月～11月です。茎や葉を折ると白い乳液が出てきます。花言葉は、「賑やか」。黄色い花がいっぱい咲きますからね。写真は9月22日、吉川区小苗代にて撮影しました。

# はしづめ法一の活動レポート

No.1927 2019.9.29

発行・編集 日本共産党上越市議 橋爪のりかず  
Tel 025-548-3628

通じないときは 090-5392-1961

E-mail hasiznyg@ruby.ocn.ne.jp

URL <http://www.hose1.jp/>



ブログ  
「ホーセの見  
てある記」は  
← こちら

橋爪法一

検索

# 春よ来い

## 第五七五回

### 姫風露

「姫風露」(ひめふうろ)という花があるんですね。先日、直江津は三八市へ行ったときの帰り道、ある喫茶店に入って初めて知りました。

この花は店の入り口の小さな植木鉢に植えられていました。花は桃色、五枚の小さな花びらには血管のような感じの赤い筋が何本も走っていました。花の形はいま、あちこちの野山で咲いているゲンノシヨウコにそっくり、違うのは葉の形です。こちらはチドメグサの葉とほぼ同じ形でした。

喫茶店に入った私は、コーヒーを注文する前に、「玄関のところにある小さな花、何というんですか」とAさんに訊きました。ひとたび気になると、じっとしていられないのが私の性分なのです。

Aさんはお店のスタッフです。「ヒメフウロと言ったそうなんです」と答えてくださいました。「ヒメフウロ?」と私が言ったもんですから、「姫のひめ、風(かぜ)、そして露(つゆ)と書くんです」とも教えてくださいました。

「花の形からいって、ゲンノシヨウコの仲間であることはわかるんですけどね……」そう言いながら、カウンター席に座り、スマホを使って調べ始めました。

すると、姫風露は「フウロソウ科の一年草または越年草。別名はシオヤキノウ(塩焼草)」とあります。やはり、ゲンノシヨウコの仲間でした。

私はスマホで調べた姫風露の情報をすぐAさんに伝えました。「間違いなくゲンノシヨウコの仲間でした。でも、私には初めて見る花です」と言うので、Aさんは、この花を入手したときのこと、花の一部は枯れてしまったことなどについても語ってくださいました。じつは、姫風露は玄関先だけではなく、お店の中にも一鉢あったのです。

この日、私がお店に入ったばかりのこ

ろ、店内にはお客さんはなく、Aさんと私の二人だけでした。コーヒーを飲みながら、私が書いている「春よ来い」のことから、議会で「しゃべり」のことまで次々と話題が広がりました。

そのなかでも盛り上がったのは本のことです。Aさんは、「橋爪さんは本は大好きなんですか」と訊かれましたので、「好きな方ですね。ただ、難しい本はダメです」と答えました。

喫茶店のカウンター内の隅っこに、浅田次郎の『蒼穹の昴』(そうきゆうのすばら)が置いてありました。私の目がそちらに向いたことに気づかれたのでしょう。Aさんは、「私は浅田次郎が好きなんですよ」と言われました。「鉄道員」など三冊しか読んでいませんが、私も浅田次郎が好きで、とくに人情の機微(きび)にふれる文章が気に入っていました。

ひとしきり浅田次郎の話をした後、私は向田邦子の小説やエッセイの話をしようと思いました。ところが、何ということでしょう、このとき、向田邦子の名前がすぐに出てきませんでした。

「私はね、あの人の本が好きなんですよ。いま生きておられれば、八十年代でしょうが、飛行機事故で亡くなった……」。私こそこれまで話をしたところで、Aさんは、「あつ、向田邦子ね。『あうん』とか『思い出トランプ』の人ね」と言われました。私が向田邦子を好きなのは、日常生活の何気ないことをとりあげて、そこにキラリと光るものを見つけ出すところなのですが、Aさんもまた向田邦子に関心を持っておられたことを知って驚きました。

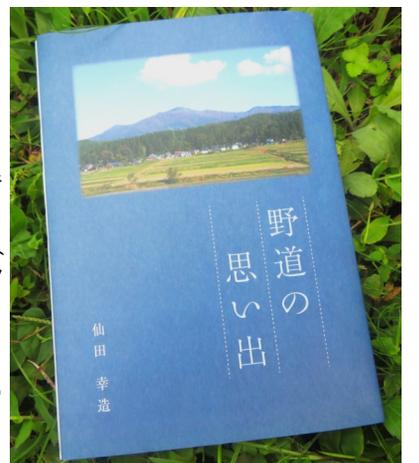
姫風露の花言葉は「静かな人」。この日、Aさんがとても本好きであることを初めて知りました。姫風露の小さな花が小柄なAさんの姿と重なりました。

## 仙田幸造さんが自分史出版

柿崎区芋島在住の仙田幸造さんがこのほど、自分史「野道の思い出」(新潟日報事業社・非売品)を出版されました。

この本は仙田さんが、「いままでどんな時代を生きて何を考え、どのように歩んできたのか」をまとめたもの。全文166ページの幼少年時代から現在に至るまでの歩みが様々なエピソードをまじえて書かれています。

子ども時代、誰でも思い出のある母親の実家。「母の実家(吉川区下小沢)の不思議な親しみと安心感。私には、何でもある魔法の家のように感じた」と書かれていました。仙田さんは元教員。最初に赴任したのは石黒小学校(旧石黒村。現在は柏崎市)でした。下宿先の落合のOさん宅では、「(藤尾から婿入りした)主人は酒がえらく強く、毎晩ヤカン一杯を平らげていました。私は茶碗二杯くらいで……」ですって。読んでみると、自分の忘れていたことまで思い出します。読んでみたい方は、仙田さん宅(電話025-536-5093)まで。



## ニュースフラッシュ

### 上越地域各消防署における空間放射線量測定結果

測定は毎日午前9時。数値はマイクロシーベルト。1時間当たりの測定量です。

消防署によると、通常は1時間当たり0.016~0.16μSv(マイクロシーベルト)だとのこと。

	9月18日(水)	9月25日(水)
上越南消防署	0.050	0.043
上越北消防署	0.047	0.050
新井消防署	0.050	0.047
頸北消防署	0.053	0.047
頸南消防署	0.063	0.060
東頸消防署	0.060	0.047
高士分遣所	0.050	0.040
名立分遣所	0.040	0.047

## 今年も稲刈り体験ツアー



今年も21日、稲刈り体験をしようと東京から吉川区東田中へ大勢の親子の皆さんがやってきました。みなさん、楽しそうでしたね。